

気象台一口メモ 「冬の気温 ～体感温度～」

2月は、1年を通じて、気温は最も低くなり、冬型の気圧配置や低気圧の影響で風も強い時期となります。

普段、生活の中で感じる気温、いわゆる体感温度は気象台の発表と感覚が大きく違っている場合があります、体感温度に影響する大きな要素は風速です。

単純に言うと風速1メートルにつき気温が1度下がる感覚になり、気温が0度でも10メートルの風のもとでは、体感温度はマイナス10度、ということになります。

風を予想する場合、気象関係者のあいだでは、「7・5・3の法則」のというのがあります。

これは天気図で北海道付近に等圧線が3本あれば注意報クラス、5本だと警報クラス、7本だと数年に一度の危険な状態、というものです。

(※一般的に天気図の等圧線は4hPa毎に描かれています)

これを気温に換算すると、等圧線1本について体感温度が2～3度下がる目安になり、暴風雪に巻き込まれると実際の気温以上に寒さで体力を奪われることとなります。

暴風雪警報が発表されたときはもちろんですが、予想される天気図で北海道に等圧線が5本以上あることが予想される場合は、外出を控えたり予定を変更することを検討してください。

また、2月の中旬は、風が弱くても朝方に晴れると、地表の熱が奪われる「放射冷却現象」により、極端に気温が低くなります。その一方で、2月下旬にもなると、最高気温が10度近くなることもあり、月をとおしてみると気温差が大きい時期です。

天気予報や気象台の情報を利用して、実際の気温や体感温度などを考慮して、体調等の管理にも気をつけた生活を送ってください。

※網走地方気象台ホームページアドレス

<https://www.jma-net.go.jp/abashiri/index.html>

※問い合わせ先

網走地方気象台（電話：0152-43-4349）